

〈資料紹介〉木村純一郎作「沖縄風俗画」について

伊禮 拓郎

“Okinawan genre paintings” by Junichiro Kimura

Takurou IREI

沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要 第18号別刷

2025年3月14日

Reprinted from the
Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.18
March, 2025

〈資料紹介〉木村純一郎作「沖縄風俗画」について

伊禮 拓郎¹⁾

“Okinawan genre paintings” by Junichiro Kimura

Takurou IREI¹⁾

序

琉球・沖縄の近世から近代期にかけての文化的要素を描いた絵画資料に風俗画がある。本県内外に複数種類の琉球・沖縄の風俗画が現存しているが、それらはいくつかの伝写系統にまとめられることが指摘されている。

多くは人々の営みを中心に描かれているが、近年当館で新たに収蔵した「沖縄風俗画」（以下、本資料と呼ぶ）はこれまで確認されていた風俗画とは異なり、動植物や産業等多岐にわたる内容で構成され、後述する通り筆者自身が見聞きした実体験を踏まえて描かれていることが明確な部分がある。方言も交えた解説も付され、明治期の沖縄の文化や産業、動植物を知る上でも貴重な資料と言える。

本稿では資料の伝来や作者について明らかにするとともに、資料の概略を紹介する。複数の要素から構成されるため、個別の内容の検討については各専門家に譲るものとする。

1. 「沖縄風俗画」の来歴と木村純一郎について

本資料は、2023年度に大阪府在住の松田氏から当館へ寄贈された資料である。松田氏によると高祖父・木村純一郎が描いた沖縄関係の絵として代々伝わっており、沖縄のために役立ててほしいとの理由から当館で受贈することとなった。

全長約18mの卷子で、表紙の題箋に「沖縄風俗画」とある。複数種類の紙を繋ぎ合わせているが、裏打ちや表具等はなく、軸木もない。作者自身が描いた絵を一巻の卷子にまとめたものと思われる。

虫食いや折れ、擦れ等が散見されるが、展示に耐

えられる程度の保存状態である。また、首里那覇を描いた鳥瞰図部分は他の部分より大きな紙に描き、折りたたんで巻かれているため破れやすくなっている。農事試験場を描いた場面も作成当初は他の部分より大きな紙に描いて折りたたんでいたと思われるが、現在は欠損している。軸木や裏打ちがなく、非常に長い卷子であるため本紙に相当な負担がかかっており、今後修理が必要と判断される。

表紙等には作者に関する情報はないが、首里那覇鳥瞰図の場面に「明治四十五年春日/木石庵淡水翁筆」とある。松田家には、木村が彫った自身の木像が伝来し、像底に「大正乙丑早春/木石居獨照/自作秘像/七十六歳」とある。これらのことから、「木石」は木村純一郎の号であると推定される。

また、農事試験場の場面では「明治十九年ニ木村純一郎沖縄県属農商課拝命兼農事試験場長心得トナリ此場内二十三カ年間住居二男直路北事務所ニ於テ廿六年ニ生ル」とあるほか、飛百足を描いた場面では「筆者沖縄在住中或夜満月ナルヲ以て…」とあり、木村自身が沖縄滞在中に見聞きした内容を明治45年（1912）にまとめた資料であることが分かる。

木村については不明なことが多い。前述の木像の像底にある墨書から、弘化3年（1850）前後の生まれと推定され、松田家に伝わる記録から昭和4～9年の間に没したとされる。

沖縄に滞在していた時期についてだが、本資料の農事試験場の場面に、試験場内に明治19年から13年間住んでいたことが記されている。このことから明治19～32年頃にかけて沖縄にいたとも読めるが、後述する通り明治32年より後の記録と思われる

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

る場面が描かれていることから、あくまでも農事試験場内に居住していたのが明治32年までとする方が正しいだろう。

また、明治期の沖縄県庁の職員録を確認したところ木村の名前が確認されるのは明治21年（1888）から明治31年（1898）までであるため、沖縄県庁職員としてではなく別の仕事をしながら沖縄に滞在していた時期がある可能性もある（表1）。

いずれにしろ、木村は沖縄県庁を辞したのち沖縄を離れ、大阪に居を移したと伝わる。

2. 描かれた対象年代について

今後木村の足跡を追うことで本資料に描かれた内容をより詳細に検討できると思われるが、まずは木村が務めた沖縄県農事試験場に関して整理する。

『沖縄県農業試験場百年史』¹によると、農事試験場は明治14（1881）年に真和志間切古波蔵村字楚辺原（現在の那覇市古波蔵）に設立された。

本資料の首里那覇鳥瞰図の場面では、ワタンヂ（渡地）や泉崎の奥に農事試験場が描かれている。渡地や泉崎から国場川を上流に行くと現在の壺川や古波蔵近辺であることを思うと、農事試験場があるのは古波蔵近辺ではなく、久茂地近辺のように思われる。

沖縄県農事試験場の場面には、県内最初の洋風建築である南陽館とともに試験場の施設が描かれている。南陽館は九州沖縄第八回聯合共進会の会場として明治27（1894）年に久茂地（現在の県庁近辺）に建設された²。南陽館が描かれていることから、明治27年以降の農事試験場を描いたと推察されるが、農事試験場が久茂地に移転するのは明治36（1903）年である。

このことから、首里那覇鳥瞰図と沖縄県農事試験場の場面は、明治36年以降の風景を描いていると思われる。明治36年以降の風景を描いているとなれば、木村が沖縄を離れたのは同年以降となり、描かれている時代は少なくとも明治19～36年頃までの内容と判断することができる。

また、『沖縄県農業試験場百年史』には明治36年の農事試験場の写真が1枚掲載されているが、現状この写真以上の情報は確認されていない。

その点、本資料には先に紹介した南陽館のほかに、

本館や事務所、農夫家といった建物に加え、甘蔗畑や藍畑といった畑関係、珈琲や龍舌蘭といった植生等も描いており、当時の農事試験場の様子がよくわかる。

『沖縄県農業試験場百年史』には職員名簿も掲載されているが、明治42（1909）年以降の職員しか掲載されておらず、木村の名前は確認できない。しかし、前述の通り明治21～31年の官正職員録等には木村の名が確認されているため、本資料は農事試験場の最初期の記録としての側面を持つともいえるだろう。

木村の業務については不明な点が多い。しかし、先に紹介した南陽館設立のきっかけとなった明治27年の九州沖縄第八回聯合共進会では事務委員として参加しているほか、明治30年に長崎で開催された第九回九州沖縄八県連合共進会には会計係として参加している³。

また、沖縄県公文書館が所蔵する西常央コレクションに含まれる『沖縄の染織工程』には「芭蕉芋製造法」が掲載されている。同資料は「木村純一郎大人調」とあり、木村の調査記録の写しと考えられている。

木村が直接あるいは間接的にかかわった業務は他にもいくつかある可能性が高く、今後の調査によりその足跡を明らかにできれば、本資料に描かれている内容が農事試験場の業務に由来するものなのか、私的なものなのかがよりはっきりしてくるだろう。

3. 「沖縄風俗画」の概略

本資料は27の場面に大別され、ほとんどの絵に見出しがついている。具体的な内容に入る前に、描かれている内容の概略を掲載順に記す。便宜上、筆者が各場面の内容に合わせて分類を行い、その下にオリジナルの見出しを列挙する。見出しがない部分等、補足が必要と判断した部分については丸かっこで注記を行う。

1. 表紙

題箋「沖縄風俗画」/（島（沖縄か）に向かう一隻の船）

2. 首里那覇鳥瞰図

3. 植物

琉球實芭蕉 / 黒ツグ / アダン / マンジュマイ
(パパイヤ) / ヤシ樹 / 容樹(榕樹) / コバ(クバ)
/ ヘゴ / 珈琲樹 / パインアップル / 蘇鐵

4. 沖縄県農事試験場

5. 都市の風俗①

糸満村漁夫之晝生魚ヲ市ニ持出 / 士族貴族之
敬礼 / 貴族散歩 / 首里士族之妻 / 田舎之者市
ニ唐芋ヲ運 / 農民市ニ豆腐買 / 市ニ豆腐ヲ焼
/ 農民豆腐之輕重ヲ試ム / 那覇士族之妻市ニ露
店ヲ為ス / 婦人重荷ヲ運フ / 干物永良部鰻店

6. 養豚

(豚舎) / 田舎之女豕児ヲ市ニ持出ス / 豕ヲ屠
所ニ持出ス

7. 労働

(荷運び) / 門前ニ於テ機ヲ卷ク

8. 遊興

村吏遊貸席 / アッチャメ踊

9. 生業

豕買歩ルク者 / 鍋釜之修繕屋 / (飲酒)

10. 乗馬

士族乗馬 / 農民乗馬 / 村民競馬

11. 墓参り

墓参り / 墓所

12. 那覇港

(那覇港の絵と解説)

13. 江戸立ち

上り口説 (解説) / 同下り口説 (解説)

14. 夜の風俗

夜深ク人ノ内ヲ問フ / 那覇士族之家内夜中通
行

15. 鷹売り

田舎之女鷹ヲ市ニ賣ル / 小児等鷹ヲ得テ樂

16. 女郎

島アルキ・親女郎里アルキノ事

17. 都市の風俗②

按司 / 敬礼ヲ為 / 那覇之若者夜中散歩 / 琉球
之子フリ歌 / 地頭代禮服

18. 市場

財産アル田舎人 / 露店葉煙草賣 / 士族内作野
菜作大根ヲ市ニ出ス / 味噌賣 / 唐芋賣 / 石油
賣 / 芋ヲ貰ハシト集リ来ル乞食 / 市中芋仲買
人 / 那覇士族ノ妻女 / 那覇人ノ下女 / 官吏ノ

下女 / 田舎人豆腐ノ輕重ヲ試ム / 田舎人市中
ニテ豆腐ヲ食ス / 市中之商人豆腐ヲ焼ク / □
ヲ賣ル / 田舎人市中ニ大根ヲ出ス

19. 豚内市場

(市場の絵と豚料理に関する解説)

20. 製糖

(サター車の絵と製糖に関する解説)

21. 農耕

唐芋植 / 畑ウチ

22. 兎市場

(市場の絵と養豚に関する解説)

23. 久米村

(久米村と孔子堂に関する解説) / 此羽織ハ支
那流 之仕立ナリ「リンクワ」ト云 / 此人之
羽織ハドンス之カケエリアリ鹿兒島之風ナルガ
如シ / 佛桑花 / 副樹 / 黄紅花 / 土堀

24. 漁業

海鳥 / 琉球糸満漁夫クリ舟ニテ出漁 / 計良間
島

25. 綱引練出し

26. 生物

ハブ / ビイチャアー / (キノボリトカゲ) / 大
蝙蝠 / 青蛇 / 木葉蝶 / (ヤシガニ) / 山亀 / 飛
百足 / (ハイ) / 山羊 / 広東アヒル / クカル / (ハ
ブ捕りの話) / (鳥の話) / 沖縄子供ノ話

27. 琉球芝居

萬歳口説 / 四季口説

跋

本資料は、木村純一郎が沖縄に滞在中（最低でも明治19～36年）に見聞した内容を明治45年にまとめた絵巻である。

描かれた内容は多岐にわたるが、各場面には特徴を抑えた絵とともに方言名等の解説が振られている部分があり、明治期の沖縄の文物や風俗等を知るうえで重要な資料であると言える。

今後様々な分野で本資料を活用いただき、研究を深めていただけると幸いである。

注

¹ 『沖縄県農事試験場百年史』 沖縄県農事試験場編集・発行、1981年3月30日。

² 嶋袋全幸「南陽館」（沖縄大百科事典刊行事務局編『沖縄大百科事典』下巻、沖縄タイムス社、1983年5月30日）。

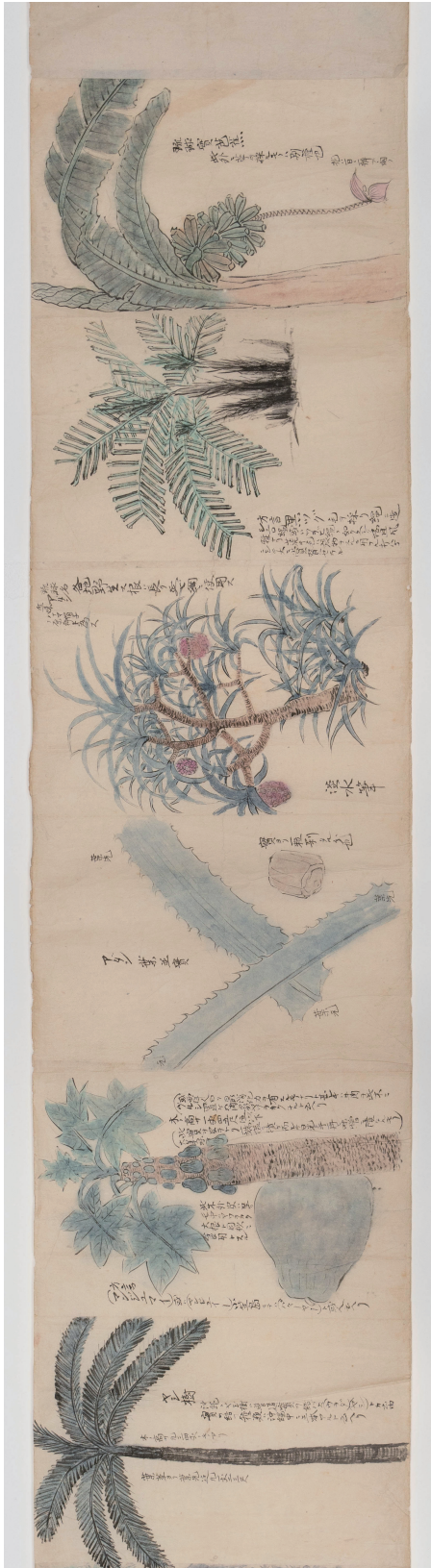
³ 来間泰男「＜資料紹介＞明治二十七年共進会報告第壹号」（『南島文化』第15号、沖縄国際大学、1993年3月31日）。

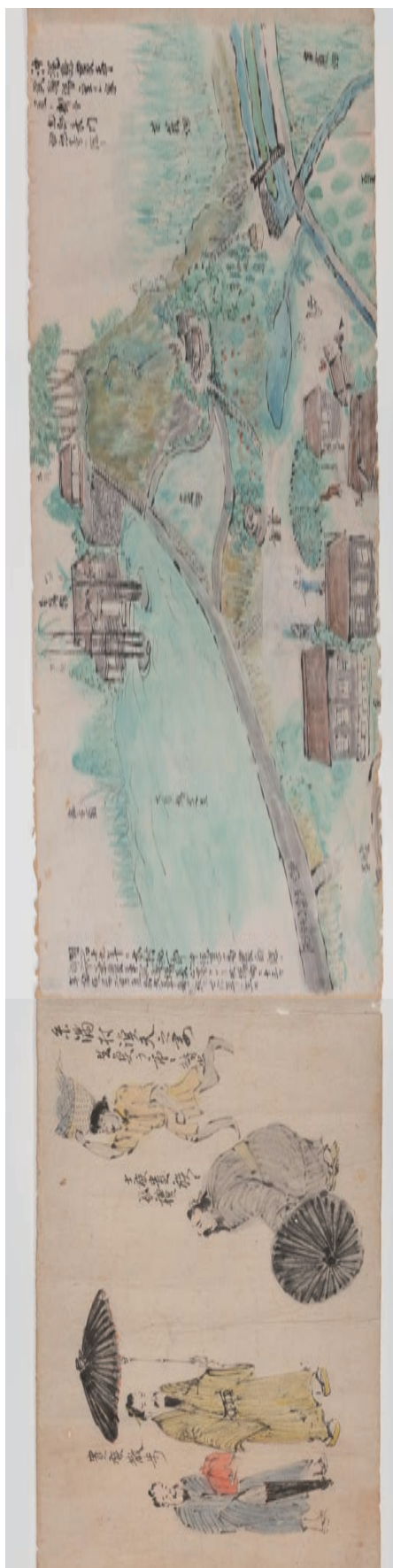
来間泰男「＜資料紹介＞明治三十年共進会報告」（『南島文化』第17号、沖縄国際大学、1995年3月31日）。

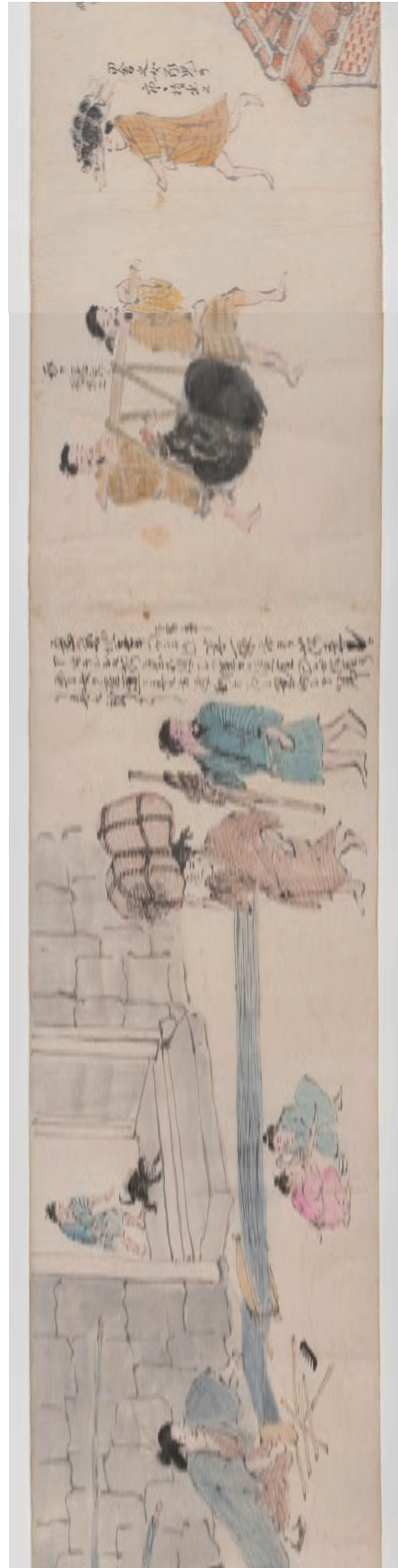
表1 沖縄県庁職員録関係資料にみる木村純一郎の経歴（いずれも国立国会図書館データベースより）

年 代	階 級	出 典
明治21（1888）年	沖縄県第一部 十等 那覇役所 十等（第一部兼務）	職員録（乙）明治21年（3月31日現在） 内閣官報局
明治22（1889）年	沖縄県 十等	改正官員録乙 明治22年11月
明治23（1890）年	沖縄県第一部 六等上	改正官員録乙 明治23年 博公書院
明治24（1891）年	沖縄県第一部 六等上	改正官員録乙 明治24年 博公書院
明治25（1892）年	沖縄県 九級	改正官員録乙 明治25年 博公書院
明治26（1893）年	沖縄県内務部 八	職員録（乙）明治26年（1月31日現在） 内閣官報局
明治27（1894）年	沖縄県内務部 八	職員録（乙）明治27年（2月1日現在） 内閣官報局
明治28（1895）年	沖縄県内務部第三課 農商掛 属 八級	改正官員録 明治28年8月改正出版 東京博文館蔵版
明治29（1896）年	沖縄県内務部第三課 農商掛 属 七級	沖縄県職員録 明治29年 沖縄県廳
明治30（1897）年	沖縄県内務部第三課 農商掛 属 七級	沖縄県職員録 明治30年 沖縄県廳
明治31（1898）年	沖縄県内務部第三課 農商掛 属 七級	沖縄県職員録 明治31年 沖縄県廳











This vertical scroll painting, likely from the Ming Dynasty, depicts a group of figures in traditional Chinese attire. The figures are arranged in a line, moving from left to right. The style is characteristic of the Ming Dynasty, with detailed clothing and a focus on narrative. The figures include men and women in various robes, some carrying objects like a large drum. The background is minimal, with some architectural elements visible at the top.



